

環境保健部長 神ノ田昌博様

私は福島県に住む子育て中の母親です。この度の出来事に対する深い憤りと心配を感じています。

5月1日、水俣市で行われた水俣病の患者・被害者と環境大臣の懇談において、環境省の担当者がマイクを切り、患者団体代表らの発言をさえぎるという事件が起きました。この出来事は、多くの人々の怒りと憤りを引き起こし、結果として大臣が謝罪をされました。

今回の問題は、公害被害の救済を担当する環境省が被害者にどのように向き合っているのかを明らかにしました。長年にわたり苦しんできた被害者が、なおも認定されずに亡くなり、未だに多くの人々が苦しんでいる現実を直視せず、加害側の責任を回避する環境省の姿勢に対し、福島未来を重ねて考え、とても不安になりました。

県民健康調査検討委員会において、環境省神ノ田環境保健部長が委員を務め学校での甲状腺検査を縮小させるよう提案し続けていることも、被害者救済とは正反対の姿勢ではないかと思っています。

福島県の子供たちの未来のためには、この様な被害者に寄り添う心のない環境省の役人は不要です。そもそも、福島県の事業に対し、環境省は介入すべきではなく、環境保健部長の役職で委員になるべきではありません。県民健康調査の検討委員に神ノ田氏は相応しくなく、即刻辞めるべきだと思います。

心からのお願いを込めて、